



令和2年11月2日

第4号

こども青少年局 保育・教育人材課 幼保小連携担当

「幼保小連携だより」

# 育ちと学びをつなぐ

## 保育・教育人材課 公式 YouTube チャンネル

～動画配信による「第2回幼保小接続期研修会」より(その1)～

国内外の新型コロナウイルスの感染状況を見る限り、新しい生活様式やガイドラインに沿った感染予防等の対応が長く続くことが予想されます。そうした状況において、保育や教育の現場では、3密を避けることは必要としながらも、子どもたちの発達等への影響についても考え、細心の注意を払いながら子ども主体の保育・教育活動が実践できるよう、創意工夫を続けていらっしゃると思います。

こども青少年局幼保小連携担当では、5月以降、集合研修に代わってWEBによる研修の機会を設け、講師や実践提案者をオンラインミーティングでつないだり、参加者とグループワークをしたりするなど、感染リスクを避けながら研修を進めています。

このQRコードを読み取ると、直接申込フォームに入れます。

10月19日(月)より、限定配信をスタートさせた「**第2回 幼保小接続期研修会**」は、視聴回数も好調で「いつでも」「どこでも」「何度でも」受講できると、充実した学びを評価していただいております。

配信期間は**12月18日(金)**までとしていますので、視聴してみたい皆様は、左にあるQRコードを活用して、ぜひお申し込みください。

研修の第1部 「つなぐ」を大切にしたスタートカリキュラムを、次のように紹介します。

4月に授業公開を予定していた横浜市立鶴見小学校が、登校再開後、6月からのスタートカリキュラムの実践を提案しています。安心感を生むための環境づくりやつながりづくり、児童支援の具体的な手立てを前半にまとめ、後半には、10の姿を踏まえたカリキュラム・マネジメントや、スタートカリキュラムを経て育った2年生や3年生の成長の姿を、実践を通して報告しています。

長期の休園・休校期間を経てのスタートカリキュラムでしたが、幼児期から児童期にかけて、自分とのかかわりを通して、総合的に学ぶ子どもたちの特性を踏まえ、生活科「学校探検」を中心に他教科のねらいを考えて、合科的・関連的に単元を構成する事例が紹介されています。

児童の育ちや学びはつながっていることを踏まえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に子どもたちの経験をうまく引き出し、算数の学習において子ども主体の学びの質を高められるように工夫されています。



(1)カリキュラムマネジメント ②10の姿を踏まえたカリキュラムマネジメントと児童支援

3 工夫して数える 子ども達

友達にも教えてあげよう

その方法いいな私も試してみよう

10ずつまとめてみよう

何回数えても同じ数になった!

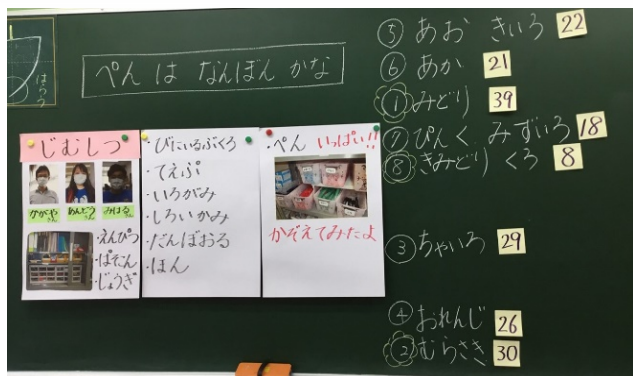
カ思考力の芽生え

ケ言葉による伝え合い

幼稚園・保育所・認定こども園の保育者が子どもを認めたり、共感したりすることを大切にしていることを踏まえ、子ども自身が自分で考え、楽しさや満足感を味わいながら、のびのびと自己発揮して学んでいけるように支援されていることが伝わってきます。

講師の嶋野道弘先生はスタートカリキュラムの中で「10の姿」が現れるような学習活動を充実させることはとても重要であると指導講評の中で分かりやすく解説してくださいます。

鶴見小学校の「つなぐ」を大切にしながら様々な実践が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに計画・実施され、成果を上げていることについて学んでいただき、ご意見やご感想を寄せていただければ幸いです。



### 【保育・教育人材課 YouTube 公式チャンネルの受講者のアンケートより】

(10月30日現在の声より)

- 子どもの様子や変化を、担任だけでなくいろいろな先生が関わり合う中で複数の視点で見ていくことで、子どもの姿に寄り添った指導ができると思いました。
- 実態に応じた活動の流れや誰にでもわかりやすい活動の組み立て、夢中になれる活動の見通しをもっていくことが大切ということを知りました。
- 幼保小、それぞれの先生がお互いの教育活動について理解を示し、園児が安心して入学して、生活と学習を行っていけるようにすることが大切だと改めて感じました。
- 興味関心を受け止めてくれる人や場が子どもの自己肯定感を高め、子どもの活動を深めたり広めたりすることができると思いました。鶴見小学校や嶋野先生のお話の中にも「安心の環境を作る」というお話もありつながるところがあると思いました。